

(別記)

令和3年度氷川町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域の水田活用状況は、令和元年度については、主食用水稲の作付面積が462ha（39%）であり、非主食用水稲が519ha（44%）、高収益作物などが196ha（17%）となっている。

本地域は、水稲を中心にい草やイチゴ・トマト等の施設園芸や露地野菜との複合経営が行われている。特に、い草の生産においては、日本一の生産地となっている。しかし、近年、和紙等の科学表、中国産等の外国産い製品の輸入が急増し、加えて住宅様式の変化により、冬作物の中心であったい草が減少傾向にあり、冬期の土地利用率が減少している。また、農家の高齢化が進み農家戸数の減少が続いており、不作付地の拡大が進んでいるため、担い手の確保が近々の課題である。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当地域内の約1,177haの水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

特に、麦、いぐさ、野菜を転作作物の主体として位置付け、生産コストの削減等に取り組みながら、魅力ある産地づくりを推進する。

いぐさについては、重点品目に位置付け、「地理的表示保護制度」GIマークを活用し、認知向上・需要拡大を図る。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

人・農地プランがほぼすべての地域で策定されており、プランにおける地域での話し合いの中で利用状況の把握・点検を実施していく。

また、畑地化の取組について重点支援期間であることの周知を行うとともに、水田利用状況の点検結果も踏まえて、果樹を中心に今後も水稲作に活用される見込みがない水田については、地域の実情に応じて水田の畑地化を推進していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

規模拡大を志向する担い手を中心に、気候に合う産地銘柄米を需要に応じて作付することにより安定した生産供給を支援する。

また、もち米生産団地として、「ヒヨクモチ」での安定的な収量を確保するため適切な肥培管理を励行し、高品質栽培を行い地域のブランド力を高め有利販売を図る。

また、生産数量目安を最大限に活用し、需要に応じた米の作付推進を図り米価格の安定化を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

国の施策を踏まえ飼料供給力向上を図ると同時に需要に沿いながら栽培面積の拡大を推進していく。拡大にあたっては、多収品種の導入、低コスト生産への取組みを支援していく。

イ WCS用稲

主食用米の需要減が見込まれる中、WCS用稲については、産地交付金を活用して、耕種農家と畜産農家との連携による資源循環の取組を推進し水田から良質の粗飼料生産を行い畜産農家のコスト低減を図る。

ウ 加工用米

複数年契約等、需要に応じた生産を推進するとともに、生産性向上の取組を支援していく。

(3) 麦、飼料作物

麦を安定的に生産するため、排水性等が良好な圃場での栽培を励行し、明渠（額縁・排水溝）や暗渠（サブソイラー等）の施工等による生産性向上の取組を推進しながら、適切な肥培管理作業（麦踏みや追肥等）を行うことで、収量性を向上させ高品質麦栽培を行い、作付面積を維持・拡大する。

飼料作物については、耕種農家と畜産農家の連携による資源循環の取組を支援することで水田から良質の粗飼料（イタリアライグラスや夏牧草等）の安定生産を推進し、作付面積の維持・拡大を図る。

また、産地交付金を活用して、二毛作及び担い手による麦の農地集積を推進し、生産性の向上を図る。

(4) なたね

現行の栽培面積を維持する。

(5) 高収益作物

産地交付金における施設・露地野菜及び花き・花木、果樹への支援を行いながら、作付面積の維持・拡大を図る。

施設園芸については、省エネルギー化や生産コストの削減、災害に強い耐候性ハウス等の施設整備の充実に加え、作業時間の短縮や経営の合理化に努める。

露地野菜については、新規導入作物の検討を行い、計画的作付体系による産地確立や生産技術の向上を図り、産地化に向けた振興に努める。

(6) いぐさ

い草を重点品目に設定し産地交付金で支援を行うことで、産地を維持する。

また、県育成優良品種の導入を拡大することで、多収・高品質な畳表を生産し、高収益な加工・畳表産地を目指す。

5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	462ha 2,203 t	450 2,466 t	450 2,466 t	450 2,466 t
備蓄米	0	0	0	0
飼料用米	15.6	30	35	40
米粉用米	0	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	0	0
WCS用稲	501	500	500	500
加工用米	2	20	22	25
麦	101	105	110	115
大豆	0	0	0	0
飼料作物	194	195	200	200
子実用とうもろこし	0	0	0	0
そば	0	0	0	0
なたね	3.0	3.0	3.0	3.0
高収益作物	134	136	139	142
・野菜	126	128	131	134
・花き・花木	5	5	5	5
・果樹	2	2	2	2
・その他の高収益作物	58	58	58	58
畑地化	4	4	5	5

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 548kg/10a

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目 標	目 標 値	
				前年度（実績）	目標値（R5年度）
1	いぐさ	重点品目（いぐさ）助成（基幹）	作付面積	57ha	58ha
2	野菜、花き・花木、果樹、その他（たばこ）	高収益作物野菜等の助成（基幹）	作付面積	134ha	142ha
3	WCS用稲、飼料作物、	資源循環の取組（耕畜連携：基幹・二毛作）	取組面積 取組割合	520ha 95.6%	521ha 96%
4	麦、加工用米、飼料作物	担い手二毛作助成	取組面積 水田利用率	290ha 109%	328ha 112%
5	加工用米	加工用米生産性向上助成（基幹）	作付面積 単収	2ha 516kg/10a	25ha 555kg/10a
6	飼料用米	飼料用米多収品種加算（基幹）	作付面積 単収	16ha 519kg/10a	40ha 555kg/10a